



Subaru

男声合唱団

ニュース№406 '13. 3. 31

祭典・制作協力金

昂・3／17現在 489,000円です。
 (前回 +33,000)
 (昂目標 600,000円)

「礫（つぶて）ソング」から3曲うたいます。

□「つぶてソング」は福島在住で3.11の大震災と福島原発事故の被災者である詩人の和合亮一氏が、刻々と思いを詩にしてツイッターで発信したものに、作曲家である新実徳英氏が感應して曲を次々つけたものです。全国的に歌われている「あなたはどこに」を始めとした全12曲の内、昂は、11.「街を返せ」、5.「許せるかあなたは」と12.「重なり合う手と手」（いずれも男声合唱版）を歌います。

□早速、T1の若園さんから「つぶてソング」について調べて投稿をしていただきましたので下記に掲載します。ありがとうございました。

つぶて（礫）ソング=「詩の礫」から
 作詞・和合亮一（わごうりょういち）
 1968年福島県生まれ 福島在住
 詩人・高校の国語教師



2011年3月11日職場で被災する。被災後最初の詩作よりツイッターで投稿を始める。直後から話題となりフォローが多数続き、書いているもの一連を「詩の礫」と名付けた。

それらは「詩の礫」（徳間書店）、「詩の黙礼」（新潮社）、「詩の邂逅」（朝日新聞社）として3冊同時に刊行された。

なお、「つぶて（礫）ソング」は作曲者・新実徳英氏が「詩の礫」から歌詞としての構成と表題をしたものである。

言葉の中の真実

3月16日の夕暮。最も放射線数値の高い福島市の部屋で一人きり、パソコンの画面を覗んでいた。アパートの2階に位置しているが、隣近所に人の気配がない。直前の数日間に原子力発電所が白い煙をあげたから、一時的にでも避難をしていたのだろう。私は父や母や、職場があるから、福島に残ることを決意した。そして絶望していた。「これで、福島も、日本も終わりだ」

ラジオからは、新潟や山形へと避難する人々へ、慌てないで下さいという呼びかけ、アナウンサーも時々、涙声になる。人は減っていく。放射能の恐怖。食料・水・ガソリンは手に入る見込みがない。気力が失われた時、詩を書く欲望だけが浮かんだ。これまでに人類が経験したことのないこの絶望感を、誰かに伝えたい。

習性というものは恐ろしい。しかしそれは最後に、その人であることを、助けてくれるものなのかも知れない。「行きつくところは涙しかありません。私は作品を修羅のように書きたいと思います」というフレーズを私は、ツイッターに投稿した。これまであまり好んでしたことは無かったが、明日には自分の生活が消滅するかもしれないその夜に、誰かに受け止めて欲しいと思い、言葉をパソコン上に投げた。

「放射能が降っています。静かな夜です」「ここまで私たちを痛めつける意味はあるのでしょうか」「この被災は何を私たちに教えたのか。教えたものなぞ無いのなら、なおさら何を信じれば良いのか」。このような出だしから2時間半、余震はひっきりなしに私の（独房）を襲ってきた。ひどい揺れの時は、パソコンを玄関まで持ちだして、揺れの中で「チクショウ」などと呟き、悔しさと情けなさと怒りが混ざり合ったような心地で、泣きながら言葉を打った。空気への恐怖感から、玄関の戸は開けられないままだった。

何も考えなかった。〈独房〉の中で私がひたすら想ったのは、言葉の中にだけ自分の真実がある、という

ことだった。後は何処にもない。社会が崩壊し、生活が奪われてしまいそうな中で、私が何も考えずにしていたこと。ただただ、その〈真実〉に幼子が母の胸にしがみつくようになって、すがることだけであった。そして私は初めて強く思った。日本語の中にこそ、〈真実〉がある。故郷がある。その夜、私から発したメッセージは、40数個になった。

フォローというものがある。これからもあなたの投稿を読みますよ、というお知らせのことだ。書き終わると、全国から171人のフォローの申し込みがあった。「詩を読んでいて、不思議と静かな気持ちになることが出来ました」「福島に残した父のことを思って泣きました」「ずっとと思い悩んでいましたが、進むべき道を探す方法を教わったきがします」というメッセージをいただき、最後に「ありがとうございました」と結ばれていた。

翌朝には550人に増えて、3日目の朝には800人ほどになった。現在は1万4000人を超える方が、フォローをして下さっている。書いているもの一連を「詩の礫(つぶて)」と名付けた。

多いときには一晩で200から300のメッセージが寄せられる。それに触れながら、私も新しいメッセージを書く。避難所からも声がたくさん届く。涙がにじむ。

言葉には力がある。ある夜に感じて、伝えた感慨がある。「私たちは、一緒に未来を歩いている」。どうしてこんな想念が浮かんだのか。私たちの母国語というものに日本人の歴史そのものがあり、そしてその先には占われた未来があることを、日本語を前にして肌で感じた瞬間があった。だから私たちの〈言葉〉に祈りを込めたい。露わな〈肌〉で望みを書きたい。「福島をあきらめない」「福島で生きる、福島を生きる」「明けない夜は無い」

2011年5月 和合亮一
「詩の礫」2011. 6. 30刊 徳間書店 より

□BSの乾さんからも投稿がありました。「つぶて」の深い意味についてお読みください。

歌の「つぶて」

BS乾 正明

「つぶて」を辞書で引くと、「礫、飛礫。小石を投げる事、また、その小石」 磯打ちは印地打ちとも称して石合戦の事で、二手に分かれて互いに小石を投げあう、誠に恐ろしくも楽しい遊びだ。もともとは、アジアの各地でも流行った宗教的な意味づけをした行事でもあったらしい。子供の頃に隣町の御勝山公園（今は史跡になっている）まで遠征して、木の陰に身を隠しながら石を投げあった思い出もある。その遊びは、ダイジェスト版で読んだ曲亭馬琴の「椿説弓張月」に影響されたガキ（自分のこと）が言い出しひでやったのだった。なにせ主人公の八郎為朝より、その従者の八町礫の紀平治がカッコよくて真似をしたかったのだった。為朝は十人張りの豪弓を引く超人だったが、紀平治は八町先の的に礫を当てる事が出来た。八町は800メートル強、物語としてもすごいが「つぶて」は武術でもあったのだ。

翻って礫は最も手近に手に入る武器だ。武器を持たぬ民衆が立ち上がる時、その手に握りしめるもの、それが礫だと思う。礫の前に瓦を置くと瓦礫になる。瓦礫は建造物などが破壊された破片を言うが、礫は瓦礫ではない。しかるがゆえに、「つぶてソング」なのだと確信する。心してこの歌たちを歌いたいと思う次第。

□作曲家・新実徳英（にいみ とくひで）氏についても、簡単に紹介します。

1947年生まれ、高校時代からつづいて、東京大学工学部在学中も合唱にいそしみ、卒業後、音楽の道を志して東京芸術大学に進み、同大学卒業・院修了という目覚ましい学歴。合唱曲作曲を中心活躍。受賞歴多数。桐朋大学院大学教授、東京音楽大学客員教授。和合亮一氏とは面識があり、氏のツイッター詩作にすぐ感應して、「つぶてソング」の作曲をし、自ら指揮をしたり YOUTUBE で発表するなど、合唱界に広く発信している。



□CD・・・「つぶてソング」の中から今回歌う「街を返せ」と「許せるかあなたは」を練習音源化しましたので、パートリーダーからCDで受領ないしMP3で受信してください。「重なり合う手と手」の音源化は進行中です。続いて配信します。

「Bougenville-①」

前の島はブカ島、左側に州都の町が見える。そこから数百メートルの海峡を渡ればブーゲンビル島。遠方(南方)の山並みへと続く。戦中はボーゲンビル島、略称ボ島すなわち墓島と呼ばれ、語り部早道氏によれば約3万2千人の日本兵が動員され、米軍の攻撃や飢えなどで約2万1千人が戦死したとされる。海峡の入口にあるのがソファナ島。今回カメラにGPSレシーバーを付けたので誤差はあるけど場所が分かります。



ソファナ島の東の先端には南方の海で亡くなったみずく屍達を悼む慰靈碑がある。(南緯5度26分 東経154度40分) そこで軍歌「海ゆかば」を思い出さんとて

「大君のかえりみはせじ海や山」・・・みずくかばね草むすかばね

「Bougenville-②」

ブーゲンビル島の北端から東海岸を百数十キロ南下する。TOYOTAの四輪駆動車に乗り、凸凹道を平均時速約50km程で突っ走る。ホコリまみれになるだけでなく、ダダダダダダッドーンの襲撃は約3時間おさまることもなく続き、内臓は下へ下へと落ちていく。帰りはどうなる事かと心配しながら。

旧日本軍の飛行場があったヌマヌマ(現地の地図ではWakunaiとある)に何とかたどり着く。この地に草むす屍たちの慰靈碑がある。68年前ここから数キロ西のジャングルの中で、飢えとマラリアに耐え切れずたおれ、埋められた多数の兵士がいた。その中の一人、赤紙召集組下級日本兵、それがお前の父親だと聞かされている。



「空青く石泣く浜や海の青」・・・草むす丘も生きるすべなく

この海岸は珍しく、波が押し寄せる度に、石がガラガラと大きな音をたてる。石も河原で見かけるように大きく、何処からか補充されているように思われる。

西島さんの
切り撮ってみる



こんな所を戦場にした国があつたし、そんな国を取りもどしたい政治家もいる。

「Bougenville-③」 この島を飛行機で縦断

大東亜共栄圏に骨をまく」…幾千万の絆断ち切り



北西部から南東部を望む 南緯 05 度 53 分 東経 154 度 43 分 標高 490m

山本五十六機は南部の Buin 飛行場を目指す途中、この島の上空で米軍機により撃墜された。このことを知って救出に向かった部隊と、飛行機が墜落したので救助は出来なくとも食料やタバコを期待したいいくつかの部隊があった。先の語り部早道氏によると「遺体は収容されていたが、機体の特徴から長官のものだと分かった。食料と武器を探したが、何も見当たらなかった」。鍋を作るため、機体を金ノコで切り取ったという。



南端のまち Buin。上に伸びる道を今少し進むと空港がある 南緯 06 度 45 分 東経 155 度 41 分 標高 502m